

兵庫県少年大会

第11回兵庫県少年大会は11月5日と12日、神戸市兵庫区の御崎球技場サブグラウンドと少年サッカー場で県下8地区の代表が参加して行われ、小学男子6年生以下と4年生以下の2つの部で西淡津井が兵庫一の栄冠に輝いた。また、小学女子の部では神戸地区代表の八多が優勝した。

第1日目は快晴に恵まれたが、準決勝、決勝の行われた第2日目の12日は朝から雨模様。しかし、大降雨にはならず、1回戦を勝ち抜いた各部の4チームが優勝をめざして、汗と泥にまみれながら元氣いっぱい走り回った。

小学男子6年生以下の部
西淡 津井 4(3-0)1 揖保サッカー
サッカー少年団 スポーツ少年団

前半10分くらいまでは、たがいに相手陣内に攻め入ったが、バックスの攻守にはばまれて得点ならず、文字どおり一進一退。しかし、津井は登がシュートを決めて先制。その後も三木田らFW陣のうまい連携プレーで加點し優位に立った。後半も津井は攻撃の手をゆる



神戸市少年選抜チーム
12月下旬に清水へ遠征

神戸市少年選抜チームが12月25日から28日まで、静岡県清水市で行われる第6回全国選抜少年清水大会に出場する。

このチームは、少年選手のレベルアップを図る目的で、神戸市協会少年委員会が昨年度から編成しているもの。今年度のチームは三好監督(鶴越)、岡コーチ(神戸FC)のもと「楽しく、きびしく自分をみがけ」を合言葉に、4月から月に1、2回の割合で練習会を開いている。7月下旬、尼崎でのスポーツ少年団リーダー研修会(兵庫県協会主催)に参加、さらに8月には西神戸YMCAで1泊の合宿を行った。8月下旬のジュニアサマーフェスティバル(神戸FC主催)で、はじめて対外試合を経験したが、全国レベルの向上はめざましく、個人技に数段の遅れをとっていた。

しかしその後、少年たちは一生懸命ボールを追いつづけ、チーム力は大幅に向上している。11月3日、大阪府羽曳野市で行われた羽曳野市長杯争奪大会では、惜しくも準優勝にとどまったが、一人一人が思いきりのよいプレーを見せるようになった。また23日にも、



津井が2部門で優勝

男の選手に 負けられないわ 女子の部は八多

男子

惜しいチャンス逃し、これに対して津井は、終了1分前に左ウイングからのパスを受けた道すが、フリーの状態

から鮮やかな決勝シュートをけり込んだ。

小学女子
八多 1(1-0)0 桜の宮
サッカークラブ サッカークラブ

この年齢層では女子の発育が男子よりも先行しているためか、イガグリ頭の男の子がふっ飛びそうな力強いプレーが随所に見られ、グラウンドを取りまく観客からやんやの叫びが聞こえた。試合は八多が前半10分にあげた1点を守りきった。

小学男子6年生以下の部 結果

西淡津井サッカー少年団(淡路)	5	4
四郷サッカースポーツ少年団(姫路)	1	0
東灘サッカースポーツ少年団(神戸)	1	0
伊丹少年サッカークラブ(阪神)	2	0
やまてサッカースポーツ少年団(東播)	0	0
緑が丘スポーツ少年団(北播)	3	1
揖保サッカー少年団(西播)	2	2
潮サッカースポーツ少年団(尼崎)	1	1

小学男子4年生以下の部 結果

神戸FCボーイズC(神戸)	3	2
揖保サッカー少年団(西播)	0	0
西淡津井サッカー少年団(淡路)	4	2
西播朝鮮初中級学校(姫路)	0	0
緑が丘スポーツ少年団(北播)	1	1
園田サッカースポーツ少年団(尼崎)	5	0
西宮少年サッカークラブ(阪神)	2	3
高丘西サッカークラブ(東播)	3	3

小学女子の部 結果

八多サッカークラブ(神戸)	6	1
城巽スポーツ少年団(姫路)	0	0
緑が丘スポーツ少年団(北播)	0	0
桜の宮サッカークラブ(神戸)	1	0

大阪府高槻市へ出かけるなど、実戦感覚の習得に意欲的である。

戦力的には木下、山中、山本宏、伊藤ら小柄ながら攻撃感覚にすぐれた選手が多く、選手の特徴をかみあわせれば、清水大会でも十分に力を発揮できると期待されている。

候補選手 片山健史、加藤大二郎、中元文浩、山中剛一、清達一功、明珍裕三、明瀬周二(以上神戸FC)、山本宏樹、山本博明(以上桜の宮)、木下全朗(神陵台)、達山薫司、宮崎延昭、中谷純也(以上成徳)、蓮池進吾、佐伯博史(以上多井畑)、西谷伸二、草柳勇司(以上高倉台)、都倉基之、山路博司(以上千歳)、近藤敏明、矢形秀人(以上蓮池)、松原丈晴、森川恭剛(以上ひよどり台)、伊藤成彦、柴原誠治(以上丸山) 25人

神戸中央球技場だより

天皇杯全日本選手権決勝大会

12月24日(日)
12:00 田辺製薬 - 帝人 松山
14:00 富士通 - 九州産業大学
12月25日(月)
12:00 フジタ工業 - ヤンマー・クマダオート
14:00 富士通 - 日本鋼管
12月27日(水)
12:00 準々決勝 第1試合
14:00 準々決勝 第2試合



個人購読のご案内

弊紙を個人で購読ご希望の方は、1年分として50円切手12枚を同封のうえ、次のところへお申し込みください。
〒657 神戸市灘区上野通6丁目3-12
加藤 正信 ☎078 (861) 3100

なお、数人分をまとめて申し込まれる場合は、割引がありますのでご連絡ください。



神戸のサッカー

1978 12月号

発行所 神戸市サッカー協会
神戸市北区有野台7丁目16-6
〒651-13 ☎(078)981-5867
発行人および編集人 加藤 正信
神戸市灘区上野通6丁目3-12
〒657 ☎(078)861-3100

毎月1回10日発行 購読料1部20円

御影工の連覇成る



兵庫県高校選手権兼
全国高校選手権兵庫県予選

神戸市立御影工高が2年連続高校サッカー兵庫一に輝き、全国大会への出場権を獲得した。正月の全国高校選手権大会の予選を兼ねた53年度兵庫県高校選手権大会最終日は11月23日、神戸中央球場で御影工一県尼崎工の決勝が行われ、御影工が5-2で勝ち2回目の優勝を遂げた。

決勝
御影工 5(0-1)2 県尼崎工

試合は県尼崎工に2点のリードを許したあと、御影工が猛反撃に転じ、塩形の4点をあげる大活躍などで快勝した。

県尼崎工に逆転勝ち
大活躍 塩形4得点

両チームともきびきびした動きで、兵庫代表を決めるにふさわしい好試合を展開したが、

総合力でまさる御影工の猛攻が、後半15分すぎから努めるように県尼崎工ゴールを襲った。御影工の1点目は、県尼崎工に2点を許したわずか1分後。右サイドからゴール前にあげた大野のFKを長身の北川がねらいすまして頭で決め、17分に、点取り屋塩形がゴール前に持ち込んで相手バックの反則をさすい、PKで同点に追いついたあと、19分には角度のない位置から塩形がGKの頭を越える

試合結果(2回戦以降)

▶準決勝 御影工5-2尼崎北、県尼崎工1-0志知、
▶準々決勝 尼崎北2-1西宮東、御影工3-0泉屋、志知③PK3須磨、県尼崎工4-0社 ▶4回戦
尼崎北2-1兵庫工、西宮東1-0鳴尾、泉屋7-0武庫工、御影工10-1西脇、須磨5-2三木、志知5-1報徳、社④PK1明石南、県尼崎工7-0市西宮
▶3回戦 尼崎北6-0村野工、兵庫工3-0赤塚山、鳴尾3-2尼崎東、西宮東2-0明石北、泉屋2-1津名、武庫工4-0関学、西脇3-1泉西宮、御影工2-1神戸、須磨5-0葺合、三木②PK2洲本実、報徳③PK3姫路別所、志知3-1県尼崎、社3-0山崎、明石南②PK2神戸西、市西宮5-0神戸北、県尼崎工2-0六甲 ▶2回戦 尼崎北7-2三木東、村野工④PK1竜野、兵庫工6-2柏原、赤塚山6-0尼崎小田、鳴尾1-0宝塚、尼崎東6-3赤穂、明石北9-0相生、西宮東1-0滝川、泉屋11-0竜野実、津名2-0武庫工、武庫工16-0尼崎産、関学②PK2姫路、泉西宮8-2洲本、西脇9-2東播磨、神戸7-0吉川、御影工6-1泉農、須磨3-2伊丹北、葺合3-2小野、三木6-5宝塚東、洲本実2-0加川東、報徳4-1太子、姫路別所2-1市伊丹、県尼崎4-0神戸甲北、志知4-0西宮北、山崎④PK1市芦屋、社7-2兵庫商、神戸西6-1三田、明石南1-0長田、市西宮16-0永上農、神戸北④PK1相生産、六甲5-1鈴蘭台、県尼崎工3-2師範工

シュートを放って逆転した。

御影工がみせた、ここというチャンスに得点する能力はさすがである。一つのプレーが崩れても、すぐまた体制を立て直してゴール前に迫る。こういうあたりは、昨年度兵庫代

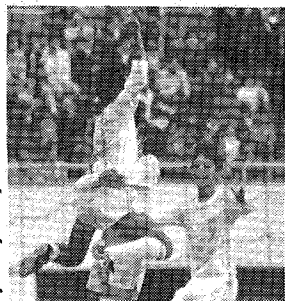
熱戦を顧みて

昨年度から7校増えて熱戦が続いたが、結局御影工が戦前の予想どおり栄冠を手にした。決勝までの7試合で合計得点が35、失点が7。1試合の平均失点1は気になるが、どこからでも得点できる攻撃力ははずば抜けていた。また、決勝を含む5試合が逆転勝ち、特に神戸との3回戦では1点リードされた劣勢な試合をじつと辛抱し、残りわずか1分間で2点をあげるはなれ技を演じるあたり「我慢のサッカー」がやれるようになった。

今大会では8チームがシードされたが東灘、北須磨を除く6チームが順当に勝ち進んだ。夏の総体で優勝した尼崎北は田口、赤松らに成長が見られたものの他の選手の力がいま一歩及ばず、準決勝で御影工に屈した。県尼崎工は朴を中心に守備をかため、攻撃はHB山田からのパスを受けた両ウイングが折り返し、CF山口がゴールするパターンで、対戦相手にも恵まれたが順調に決勝に進出した。決勝では後半になって体力、気力が落ちたが、優勝するためには、このあたりがカギになりそう。

上位を勝ち抜いてきたチームでは、ベスト

御影工に続け



全国大会でもこのような光景が見られるか…。がんばれ御影工

1回戦から大差となる試合もあったが、全体には力が向上し、実力伯仲の好チームが目白押しだった。

さて、御影工は全国大会でどんな活躍を見せるだろうか。昨年は1回戦で習志野に惜敗しているだけに、イレブンは燃えている。昨年の経験者11人が健在だけにひとあはれしそうだ。大野、塩形らの攻撃力は通用するだろうが、課題は守り。長いパスを出されると守備陣に乱れが起こる。このあたりを克服すれば、上位進出も決して夢ではない。兵庫サッカーのすばらしさをぜひ見せてほしい。

御影工一県尼崎工の決勝戦、後半15分、御影工の塩形(白)が県尼崎工のゴール前にドリブルで持ち込んで反則をさす(11月23日、神戸中央球場)

神戸FCに栄冠

兵庫県中学生選手権大会

昭和53年度兵庫県中学生選手権大会は、県下各地区の予選を勝ち抜いた30チームによって争われ、最終日の11月23日神戸中央球技場で、神戸FCジュニアAが辰美を2-1で破って優勝した。



▲辰美ゴール前で喜びの叫びを上げる神戸FC・山下(11月23日、神戸中央球技場)



抜群の個人技で
プレーはつらつ

今年の大会は昨年までと異なり、2、1年生の選手に絞っていわゆる新人戦とし、またクラブチームなど中学生で編成されるチームにも参加の機会が与えられた。

決勝
神戸FC・A 2 (1-0) 1 辰美

試合は25分ハーフで行われ、神戸FCがすばらしい個人技でペースを握った。再三、惜しいチャンスをつかみながら得点できなかった神戸FCは24分、ペナルティエリアの外で得たFKを、井上が直接決めて前半を1-0でリード。後半も神戸FCの優位は動かず、13分に山下が辰美バックとせりあいながら、ゴール左にダメ押し

2点目を決めた。中学生大会に初めて出場した神戸FCのサッカーは光っていた。スピードで勝負しようとする中学チームが多い中で、神戸FCは「ゆっくり」やっている。ボールをはやくけて攻め込むよりも、ドリブルして得意の足技を存分に楽しんでいる感じだ。そして時折、井上が相手バックスの後ろに長いパスを出してゴールに迫る。

神戸FC2度目の優勝

神戸市総体 社会人の部

第27回神戸市総合体育大会サッカー競技社会人の部は、灘区代表の神戸FCが決勝で長田区の双和クラブを下し、5年ぶり2度目の優勝を飾った。

9月30日の開幕戦で、神戸FCと川崎重工の兵庫県リーグのチーム同士が顔を合わせたのが、川重を退けた神戸FCが北高OB、須磨クラブを連破し決勝に進んだ。

一方のゾーンからは、予想どおり双和クラブが勝ち抜き、決勝戦は10月29日、小雨の磯上球技場で行われた。開始直後に双和がゴール前のボールをよくつめて先制したものの、長谷川、幸田ら中盤の展開力でまさる神戸FCが次第に盛り返し、好試合となった。結局木村の2得点をあげる活躍で逆転し、双和クラブの反撃を振り切った。

神戸市総合体育大会社会人の部 結果

垂水区(ケンタッキー)	0	
長田区(双和クラブ)	5	3
兵庫区(選抜)	①	0
東灘区(あしかび)	1	
葺合区(神戸製鋼)	2	0
須磨区(須磨クラブ)	②	0
生田区(川崎重工)	0	
灘区(神戸FC)	2	7
北区(北高OB)	0	6

優勝
神戸FC
1970

新刊案内

『トレーニング』

少しでも運動生理学に興味のある人にとって、実践の手引きとなる最適書。身体的トレーニングの基礎と原理について、生物学および医学的分野における最新の科学研究にもとづき、要領よくまとめられている。(H・ラーロヴィツ、W・メラー共著 石川亘、青山昌二共訳。広田公一監修 ベースボールマガジン社出版 800円)

『実践スポーツ外傷マニュアル』

スポーツで起こる外傷の判断と治療、再発予防、リハビリテーションに関する専門書。(オーソン・デービス、リチャード・フーパー共著 高木俊男訳 テーパー社出版 2900円)

月刊誌『The Taper』

アメリカで150万人の読者を持つ、この分野におけるトップ書の日本語版。毎月、新しい情報が、イラストを豊富に使って紹介される。(テーパー社出版 月360円 年間予約購読 4000円)

神戸FCのほとんどの選手は、同クラブの「ボーイズ」チームの卒業生。もちろん中学生になってから、神戸FCにあこがれて入る選手もいる。こうして小、中学にわたってクラブの一貫した方針のもとで指導されているので、選手のレベルは高い。

中学生年齢で選手が身につけなければならないプレーは何か。その一つの解答を示した神戸FCの戦いぶりは、兵庫の中学サッカーに一石を投じたといえよう。

53年度兵庫県中学生選手権大会 結果

滝上甲子園(西宮)	2	3	0
四庄北(尼崎)	0	0	2
大庄北(尼崎)	13	2	5
辰美(淡路)	0	4	
三田(丹有)	0	3	
神戸FC・B(神戸)	3	⑥	1
中伊丹(北播磨)	6	PK	0
伊丹西(北播磨)	2	PK	0
精道(芦屋)	0	0	
久保匠(神戸)	PK	⑥	1
大久保(明石)	0	1	
鳴尾(西宮)	0	0	
潮少年団(尼崎)	0	6	

優勝
神戸FC・A

御影(神戸)	1	11	
西宮(西宮)	4	①	1
西宮(西宮)	PK	①	0
岡(東播磨)	1	0	
錦台(神戸)	2	2	0
緑丘(北播磨)	3	3	2
伊丹東(北播磨)	3	1	
姫路東(姫路)	1	1	
神戸FC・A(神戸)	6	5	2
若草(尼崎)	0	0	
木(北播磨)	PK	①	3
西宮(姫路)	1	2	
野(神戸)	1	1	4
木(西宮)	1	0	
良(淡路)	1	1	
海(明石)	2	0	1

神大1部へ昇格

関西学生リーグ2部の神戸大学が、来年度から1部リーグに復帰することになった。53年度2部リーグBブロックで6勝1分けの成績で優勝した神大は、10月22日に行われた2部の1位決定戦で、Aブロック優勝の関西大学を2-1(前半1-0)で破り、自動昇格が決まった。神大の1部リーグ復帰は8年ぶり。神大が1部リーグでプレーするのは8年ぶり。



コーチの目 神戸大学の部員は、マネージャーを含めて約35人いるが、その多くは高校時代のサッカー歴が1年程度であり、残念ながらレベルは高くない。一般的に言って、国立大学はサッカーの素質にすぐれた選手に、なかなか恵まれないのが実情である。したがって、そのような選手を鍛えて試合にのぞむわけであるから、根気よく少しずつ積み重ねていくしか方法がない。ここ2、3年、学生生活、サッカー生活を通して選手の「甘え」をきびしく指摘してきたが、しかっても選手は逃避することなく、むしろ素直に受け入れ、努力するふん囲気が広まってきた。これが1部昇格を果たせた最大の原因であると信じている。このような選手の自覚が、技術、戦術、体力、精神力の重要性を知り、試合に際してもうろたえることなく、自分たちの力量をいかに発揮した。

来年度は1部リーグの強豪を相手に苦しい試合が予想されるが、神大サッカーを十分に発揮できるよう、今年の冬はもう一度サッカーの原点に立って練習に励みたい。

(五島祐治郎)

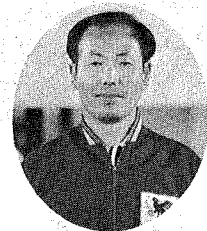
ゴールキーパー

講習会に参加して

※ セービング ※

セービングとは、体を投げ出してシュートを防ぐプレーの総称であり、技術面より戦術的な意味が強い。

走りながらのセービングは、次の点で基本的技術と異なる。すなわち、基本姿勢から始まるのではなく、ランニングの続きとしての動作であり、ダイビングは横方向よりもむしろ斜め前へ行く。ダイビングに伴う危険から身を守るため、体のさばきに慣れておかなければならないし、着地の方法もその都度、スライドやローリングによって行う。走りながら行うセービングには、次の4つのプレーがある。①立ち姿勢での捕球 ②ローリングダウン ③コラプシング ④ダイビング



※ パンチング ※

GKはいつでも安全に捕球できるとは限らない。捕球することによって危険が予測される時、たとえばGKの近くで複数の選手が一度に跳び上がったり、またボールが水でぬれた状態で、強いシュートをされるとボールをこぼしやすい。このような場合は、捕球しようとするよりもパンチングで逃げるほうが安全である。ただ、パンチングにおいては捕球と違って、ボールがすぐ相手に奪われて再びゴールを危険にさらす恐れがあるので、注意を要する。

パンチングには、両手で行うパンチングと片手パンチングの2種類がある。GKの左右に飛んでくるボールは、一般に片手でパンチングし、正面からくるボールは両手パンチングで逃げる人が多い。両手パンチングは片手パンチングよりも正確でしかも安全であるが、片手の場合に比べて、腕の到達距離が短いという欠点がある。コーナーキックやロビ

神戸市少年サッカー指導者

新たに20人が誕生

53年度神戸市少年サッカー指導者講習会は11月7日、前期、後期あわせて12日間延べ25時間の全日程を終了した。前期が始まる時点では、すでに資格を取っている8人と女性を含め40人の受講生を数えたが、さすがに後期は人数が減り、最終的には合格者は20人。みごと合格した人たちは、出席率もほぼ皆勤でその熱意と根気はりっぱ。最終日、合格発表を聞いた受講生たちは安ど感とともに、雨の日も風の日も重い体にムチ打って、やり抜いた満足感があふれていた。今後の活躍が期待されている。

今年の特徴は、神戸市少年リーグに出場している選手の父兄の参加が多かったことで、多井畑、高倉台の父兄が合格者の半数を占めた。また、後期は指導実習に重点をおき、日ごろ指導経験の少ない社会人にも指導要領を意用してもらい、この講習会の受講生を対象に「先生役」を演じた。なお、12月10日(日)に神戸市少年選抜チームを対象に、指導実習の再研修を行うことになっている。(カ)

合格者 加藤雅之(大阪体育大学)、桑田結(神戸サッカースクール)、山中嘉一(神戸FC)、藤成弘(神陵台)、金子文夫(成徳)、北村靖雄、沢田輝夫、高橋保英、東条健司、西野一幸、橋本昌幸、宮田勝美(以上多井畑)、佐藤泰司、高須保昌、村田文夫(以上高倉台)、松村博支(干歳)、吉田雅文(ひ

《4》

一北四郎



パンチングを失敗すると危険な場面を迎える。ボイルは少しでも遠くへはじき出さなければならぬ。(写真は昨年度の天皇杯全日本選手権大会より)

瞬間的な判断を養おう

ングボールを、相手の選手と競り合ってパンチングする時は、十分に跳び上がり両手を使うことが多いが、相手の選手が複数であったり、跳び上がるタイミングが少し遅れた場合は、片手パンチングが有効となる。

シュートされたボールを、ダイビングしながらパンチングで外へはじき出す場面では、跳び上がりはボールの方向に行い、空中姿勢でパンチングする。この時、腕は十分に曲げた状態からひじを伸ばしながら、ボールを強くたく。跳び上がる足とボールをたく手は、左右が逆になる。

※ デフレクティング ※

ボールがゴールに向かって飛んでくるのをゴールの外へはじき出すのと、センタリングのボールのコースを変える2つの場面がある。飛んでくるボールの高さか、または少し低目

※ 足でのセービング ※

非常に危ない場面にだけ用いる。近い距離から低くて強いシュートが打たれた時に有効となる。しかし、ボールがはねかえって相手にわたる危険性があるので、できるだけ早く基本姿勢にもどるよう心がけなければならない。どんな種類のキックを使うか、それを決める余裕がないのが普通であるが、安全さと方向のコントロールという点で、インサイドを利用することが望ましい。

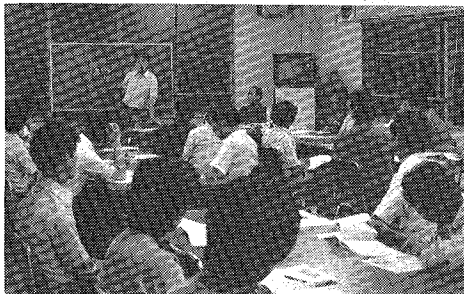
姿勢としては、基本姿勢よりも後方に体を倒し、体重はかかとにかける。

※ エマージェンシー セービング ※

これまで述べてきたプレーが使えない状態でのセービングで、スピードや方向が予測できない時、あるいはペナルティエリアの外でのセービングをいう。近い距離からのシュートに対し、GKは自分の体を投げ出してゴールを防ごうとする。この場合、なるべく広い範囲を防ぐには、体側を下にしてボールにとび込むのが効果的である。

ペナルティエリアの外では手を使えないので、最後の手段としてキックまたはヘディングを用いるか、それとも相手にフリーキックを与えるのを覚悟でボールを押え込むか、その場の状況に最も適した方法を瞬間的に判断して、動作に移らなければならない。

この連載は、日本協会が今年の夏、ハンガリーのプロコーチを招いて行ったGK講習会に参加した内容を、報告しているものです。



黒田講師による講義風景(御影工高にて)

よどり台)、山下俊彦(和田岬)、木村隆一郎、留田正彦=20人

講義内容 サッカー概論(1)、発育、発達論(1)、競技規則(2)、コーチング法(3)、運動生理学(1)、救急法(1)、戦術と作戦(2)、心理学(1) 実技内容 ボール体操(1)、ドリブル(1)、トラッピング(1)、パス(1)、ヘディング(1)、シュート(1)、ゲーム指導(2)、指導実習(5) ()内は時間数

本紙は次のところにもあります

関正スポーツ

東灘区住吉宮町4丁目6-13 ☎078(821)8449
国鉄住吉駅南側西へ20m

灘スポーツ

灘区倉石通5丁目1-8 ☎078(861)4671
市バス水道筋6丁目上がる100m東側

塩谷スポーツ

兵庫区大開通7丁目5 ☎078(576)0870
バンドウ化学南

MEN'S SHOP MAC

三宮センター街店 ☎078(391)0895
ブレイザーショップ ☎078(391)0896
トアーロード店 ☎078(575)7688
神戸・新開地店

ワールドスポーツ

東灘区深江北町4丁目7-3 ☎078(453)2186
阪神深江駅北側信号西

オウビ

森合区琴緒町4丁目7 ☎078(242)3667
国鉄三宮駅北側神戸理学院専門学校斜め前(田上ビル1階)